

氏名	河 田 義 郎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 250 号
学位授与の日付	昭和42年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	痛風症の温泉療養に関する研究 第1報 三朝温泉水飲用の尿酸排泄量に及ぼす影響 第2報 三朝温泉入浴の尿酸代謝に及ぼす影響 第3報 痛風症の温泉療養の経験
論文審査委員	教授 森 永 寛 教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

わが国においても数年来、痛風患者は激増し、症例報告的興味の対象ではなくて主要な関節病の一つとして認識されてきた。この痛風症が温泉の好適応症であることは欧州においては古くから経験的に知られているが、その作用機序については必ずしも明らかでない。著者は含重曹食塩放射能泉である鳥取県三朝温泉の飲用と入浴の尿酸代謝に及ぼす影響を検索し、三朝温泉水の飲用は腎血流量の増大による尿量の増加と共に尿の滴定酸度を減少せしめて尿中の尿酸溶解度を増すことによって血中尿酸濃度を減少せしめ尿中への尿酸の排泄を促すことを認めた。又温泉入浴はP.S.P試験値を改善し殊に微温長時間入浴は尿酸クリアランスを増大せしめる事を明らかにし、三朝温泉療養が痛風患者に有効であり得る根拠の一つを見出した。上述の成績からさらに単純アルカリ性泉をも痛風泉として応用すべきである事を強調した。

(昭和41年12月日本温泉気候物理医学会雑誌第30巻第1, 2号掲載)

論文審査の結果の要旨

本研究は、痛風症の温泉療養について臨床的に研究したものであって、従来十分に解明されていなかった温泉療養の効果の作用機序、とくに温泉飲用による尿酸排泄機構について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。